

アンケート

# 「新潟県の高校生」 — 学習・学校・生活

— 1,000人の高校生に聞きました —

研究所高校教育研究会

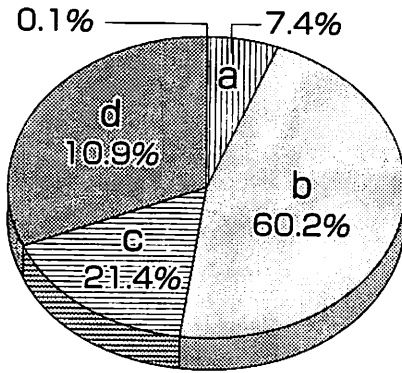
私たち「高校教育研究会」は真の学校改革に役立てることをめざして、県内の高校生の授業と生活についての意識を調査する「高校生アンケート」を実施しました。調査は昨年十二月に行い、県内公立高校二六校、三二学級の生徒諸君の協力を得ることができました。アンケートに協力いただいた生徒数は男子五七九名、女子五二〇名、合計一、〇九九名です。私たちの今回のアンケートにご協力いただいた先生方と千名を越える高校生諸君に心から感謝したいと思います。

以下、アンケート結果と検討会での討議を報告します。なお、アンケート結果についての率直な感想と分析を齊藤進氏（氏に依頼していただいた方を含む）と研究所の本田敏彦にまとめていただきました。高校教育に関心をお持ちの方々が、深い分析と討議をすすめるための資料としていただくことを期待したいと思います。

## 高校に通うのはあたりまえ (1)

もっとも多かったのは「とくに何も思わないで学校に通っている」六〇・二％（滋賀五三％）でした。これはすでに高校教育が準義務教育化している現実の反映

1、朝、あなたはどんな気持で学校に行きますか。



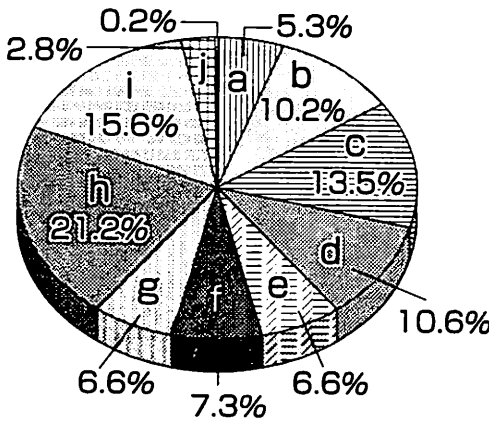
d	c	b	a
行きたくない気持ちでいっぱいである。	あまり行きたくない。	とくになにも思わない。	元気な気持ちで出かける。

であると考えられます。なんのために高校に行くのかを考えない、高校に行くのはあたりまえという意識をもつ世代が育っているのでしょう。一方、「あまり行きたくない」「行きたくない気持ちがいっぱい」がそれぞれ二一・四％(二六・七％)、一〇・九％(七・五％)というのは、高校が準義務教育化しているのに厳しい選抜制度が残されて学校間格差が拡大し、不本意入学や不登校が増えていることも大きな要因であると考えられます。この設問は滋賀県高教組の昨年の調査と同じですが、結果はまったく同じ傾向を示しています。

友だちと会うのが楽しい(2)

学校に通う目的は「友だちと会うのが楽しみ」二二・二％「なんとなく」一五・六％は現場の生徒の様子から予想される高校生像です。「卒業できればよい」六・六％と「なんとなく」を加えると二二・二％となり、一の設問との共通性が見られます。bとeの就職や進学のためなど進路に関する項目を合わせると四〇・九％であり、進路への意識が高い比率を占めています。学校で何らかの力をつけたいという目的をもっている生徒(aとf)は五三・五％です。その他は「卒業資格をとるため」「親が行けというから」など。

## 2. あなたが学校にかよっている目的はなんですか。



a	多くの知識を身につけ、もっと深く学びたい。
b	就職するための知識・技術を身につけたい。
c	進学するための学力をつけたい。
d	将来やりたいことがあるので、それに挑戦できる力をつけたい。
e	自分にあつた仕事を見つげるために、いろいろな勉強をしたい。
f	部活で頑張つて実力をつけたい。
g	将来のことは考えられないので、とにかく卒業できればよい。
h	友達もとあつのが楽しみで学校にかよっている。
i	ただなんとなく学校にかよっている。
f	その他

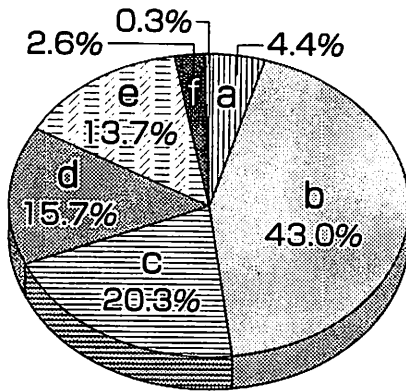
### 高校生は二極分化している (3)

授業を「大体まじめに受けている」四三・〇%「意欲をもってとりこんでいる」四・四%であり、合わせて四七・四%。「退屈でおもしろくない」二〇・三%「あまり集中していない」一五・七%「がまんして受けている」一三・七%は合わせて四九・七%と高校生が二極分化している状況を表しています。生徒の自己評価と教師の見方とのすれ違いも大きいようです。生徒はまじめに授業を受けているつもりでも、多くの教師は生徒の意欲が感じられないと嘆いています。その他「真剣に取り組みたいがうまくいかない」「好きな教科はまじめに受けている」「教科による」など。

### 夢に向かってがんばりたい、 学習習慣・意欲がない (4)(5)

設問は授業について四で肯定的な受けとめ方と五で否定的な受けとめ方を聞いたのですが、「授業について」とするよりも「勉強について」として勉強の動機付けや学習意欲を聞いた方がより適切だったようです。肯定的な受けとめ方では「やりたいことがあるので夢に向かってがんばりたい」二二・八%でトップ、「友

### 3、あなたは毎日の授業について、どのように受けとめていますか。



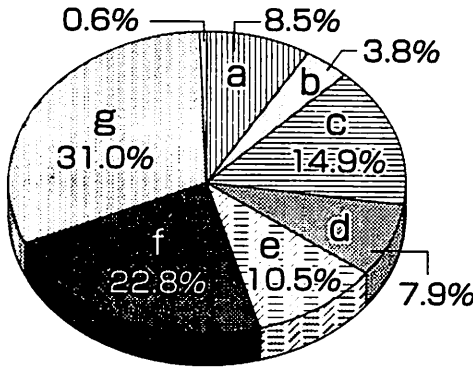
f	e	d	c	b	a
その他	授業は卒業のために必要なので、がまんして受けている。	授業はあまり集中していない。	授業はたいくつでおもしろくない。	授業はだいたいまじめに受けている。	授業に真剣にとりくみ、意欲をもって勉強している。

だちがはげみ」一四・九%「他人に負けない力をつける」一〇・五%と続きます。否定的な受けとめ方では「勉強する習慣がついていない」二五・六%「意欲がわかない」一一・〇%と学習習慣の欠如をあげています。親や教師の期待への反発が八・五%、「なんとかなる」一九・六%、授業への批判(c)が一四・四%でした。六〇〜七〇年代には存在した社会の刺激が風化し、学校教育も民主主義を育てようとせず、高校生がより主体的に社会問題にかかわれない状況をつくってきたことにも大きな原因があるのではないのでしょうか。ヨーロッパの高校生が主体的に行動するのと比べて、授業で指名されるが嫌だ、人前で発言したくないという日本の高校生との差の大きさを痛感します。

#### わかりやすい授業、実力がつく授業(6)

授業への要望は「わかりやすい」二三・六%「ていねいな」一一・〇%と合わせて三四・六%、「応用力がつく」一七・〇%「進路に向けて実力がつく」一四・八%と合わせて三一・八%と学校ごとまたは学科別に完全に二極分化している現状を表しています。「意欲がわく」「社会的視野」「自学自習」「生徒の参加」など積極的な要求をもっている生徒は合わせて三

4. 授業についてあてはまるものがあれば2つ以内選んでください。



g	f	e	d	c	b	a
あてはまるものがない。	やりたいことがあるので夢にむかってがんばりたい。	競争社会だから、他人に負けない力をつけたい。	平和・環境・社会問題などを理解し、貢献できる力をつけたい。	勉強から生き方までも話しあえる友だちがいて励みになる。	先生の授業への熱意や工夫が励ましになる。	親の期待や励ましにこたえて頑張りたい。

一・五％います。全体的に授業がわかりたい、進路に向けた力をつけたいという要求が根強いことがわかります。さらに積極的な授業の改善要求も多く、大きな課題になっていると考えられます。その他は「楽しい授業」が目立つ。

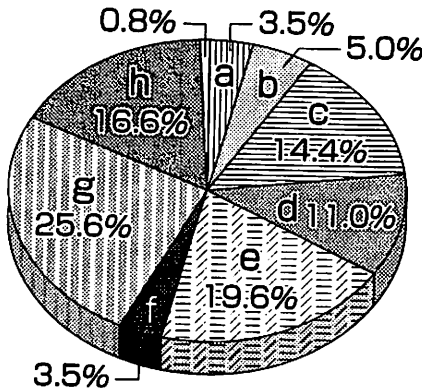
気軽に声をかけあう友だちがいる (7)

「気軽に声をかけあう」「互いに信じあえる」 a) eまで何らかの友だちがいると九三％の生徒が答えています。「いつも気をつかっている」「ほとんど友だちはいない」が五・二％と意外に少ないようです。しかし、「気軽に声をかけあう」三五・〇％は、表面的な人間関係の域を出ない生徒も多いと考えられます。いずれにしろ、高校生が同世代の友だちから大きな影響を受け、なんでも相談でき、共感しあえる友だちがいることが彼らの人間的成長にとってどんなに必要なことかを考えると、安心する反面まだ多くの課題が残されていると思います。その他には「メル友」「遊び仲間」「中学時代の仲間」など。

自信がない、孤立する生徒たち (8)

現在薄くなっているといわれている自己肯定感を問

5、授業についてあてはまるものがあれば2つ以内選んでください。



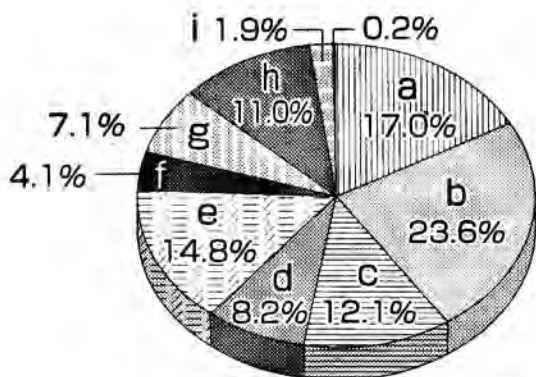
項目	内容
a	親がうるさくてやる気がしない。
b	先生がうるさくてやる気がしない。
c	授業が一方的で生徒の要領とかはなれている。
d	授業にも集中出来なく、何ごとにも意欲がわかない。
e	ほどほどにやっても何とかなる。
f	希望が見えない世の中で、何をしてもムダだ。
g	勉強する習慣がついていない。
h	あてはまるものがない。

う設問です。「自信が持てない」三五・三％は思春期の特徴でもあると考えられますが、過度の競争教育の中で自己肯定感をもてない生徒が増えている実態も見えてきます。「人とつき合うのがおっくうで一人でいた方がよい」一三・二％「人の目が気になって学校に行きたくないときがある」九・八％ですが、最近これらの生徒が増え病的傾向も強まっているといわれ、大きな問題です。「自信がある」八・五％「人とつき合うのが苦にならず社交性がある」二一・三％は優越感も含まれるでしょうが、自己肯定感があると見てよいのでしょうか。その他「人見知りがはげしい」「人とつき合うのは苦ではないが一人でいるほうがよい」「本当に親しい人以外つき合いたくない」など。

悩みは進路・勉強が第一(9)

「勉強」一九・九％(大阪二八・九％)「進路」二八・一％(二四・一％)は高校生をとりまく現実から当然の結果でしょう。「性格」一〇・六％(九・二％)「容姿」九・三％(六・八％)は思春期特有の結果と考えられます。「友人関係」七・〇％(七・三％)はいろんな問題を含んでいると見なければなりません。この設問は大阪教育文化センター(九二年)の調査と同じにしま

6. あなたはどんな授業を望んでいますか。3つ以内選んでください。



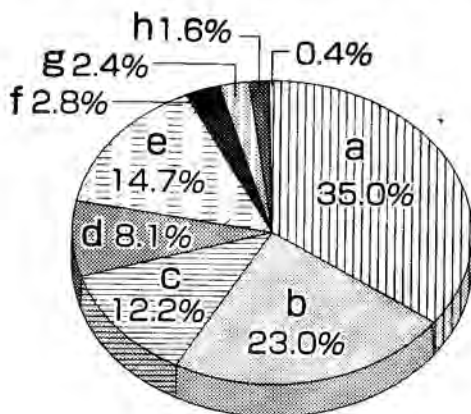
希望内容	割合
a	重点をおさえた、応用力のつく授業。
b	すずみ方がゆつくりで、わかりやすい授業。
c	内容が深くもっと知りたいという意欲がわく授業。
d	社会的な視野が広がり、考えさせられる授業。
e	進路に向けて、実力がつく授業。
f	実験・実習・見学・レポートなど、自学自習の力がつく授業。
g	生徒どうしの話しあいなど生徒が参加できる授業。
h	わからないことにていねいに答え、個別指導をしてくれる授業。
i	その他

したが、結果はまったく同様の傾向でした。その他「異性」「恋人」「卒業できるかどうか」「バイト、部活」「日本の将来」など。

将来の生き方は自分にあう仕事、  
まわりと協調 (10)

「自分にふさわしい仕事を見つけよう」と三二・二%（滋賀三一・四%）「自分を見失わずに周りの人と仲良くやっていきたい」一八・三%（一九・三%）「趣味を大事にしていきたい」一一・八%（一一・六%）を合わせて六二・三%となり、自己の確立と協調性をもって社会生活をしたとの願いが強いことがうかがえます。次に「家族を大事にしていきたい」一〇・〇%（九・六%）「豊かな生活をしたい」九・八%（一〇・八%）「社会のために役立ちたい」七・二%（五・〇%）であり、「流れのままに生きていきたい」は一・四%（一・四%）と時代迎合的な生き方には共感していません。全体的に選択肢にもよるが、生徒は自分を中心に社会に役立つとか猛烈社員などは嫌われる傾向のようです。これも滋賀高教組の調査と同じ設問ですが、順位までほとんど同じ結果であり、高校生の意識が全国的に均質化していることを表している

7. あなたはどんな友だちがいますか。



h	g	f	e	d	c	b	a
その他	ほとんど友だちはいない。	いっしょにいるグループはあるが、いつも気を使っている。	部活や趣味がいっしょで、気持ちを通じあう友だちがいる。	勉強をいっしょにできる友だちがいる。	たがいに信じあえる友だちがいる。	なんでも話せ、相談できる友だちがいる。	気軽に声をかけあう友だちがいる。

ます。

日本の将来は暗くなる (11)

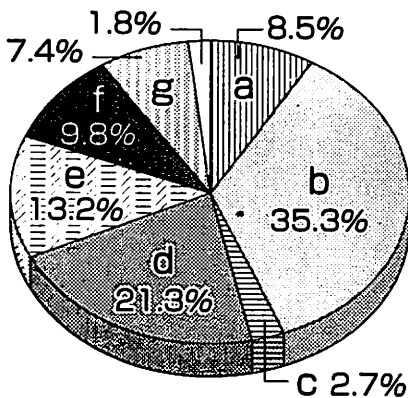
「明るくなる」一九・四% 「暗くなる」三八・四%  
 という結果であり、現在の深刻な不況、政治腐敗、平  
 和や環境などの危機的状況を反映しているのでしょう。  
 現在の失業率五・五%の中で、一五〜二四才の失業率  
 は一〇%を越え、青年の希望を失わせる社会状況が影  
 を落としています。

人類には未来をよりよくする力がある (12)

明るくなる理由は「不況は回復し豊かな社会にな  
 る」二七・七% 「人類は未来を切り開く力がある」二  
 二・九% 「努力や実力が報われる社会になる」一九・  
 二% 「科学技術の進歩」一四・三%の順でした。これ  
 らの高校生は政治や経済、社会のしくみがよい方向に  
 発展する、人類の力に信頼を寄せていることがわかり  
 ます。その他「自分たちの未来は自分たちが切り開い  
 ていく」「明るくなって欲しいと願う」「気持ちだけ  
 でも前向きに」「自分が生きていく将来だから、暗い  
 とは思いたくない」。



8、あなたは自分についてどう思っていますか。2つ以内選んでください。



g	f	e	d	c	b	a
その他	人の目が気になって、学校に行きたくないときがある。	人とつきあうのがおっくうで、ひとりである方がよい。	人とつきあうことが苦にならず、社交性がある方だ。	自分だけがだれよりも好きである。	自分に自身がもてない。	自分に自信がもてる。

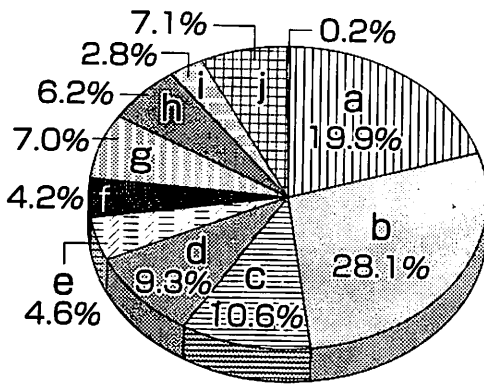
### 不況・環境破壊・テロ・戦争 (13)

暗くなる理由は「不況がひどくなる」三二・七％「環境悪化」二五・四％「テロ・戦争」一七・二％「社会のしくみ」(a、d)一九・四％と、現在の我が国の深刻な不況、閉塞的な社会のしくみ、世界的な環境問題、テロや戦争に危機感をもっています。次代をになう青年が明るい未来を展望できず、将来に希望をもつて努力する意欲をもてないようでは、日本の将来が危機的状況になると考えられます。その他「政治家がなっていない」「政治が悪い」「政府が国民の現実に目を向けない」「政府が国民負担ばかり増やす」「税金のかけ方、社会保障がダメ」「核戦争」「アメリカの半植民地化」「気力のない人間が増える」「理念を持つ人がいない」など、高校生は深刻な不満・不安をもっています。

後にあげた自由記述は学校や教師への痛烈な批判を含め、生徒の思いや願いがあふれています。これらについては後の筆者にふれていただきましたが、私たちも真剣に受けとめていきたいと思えます。

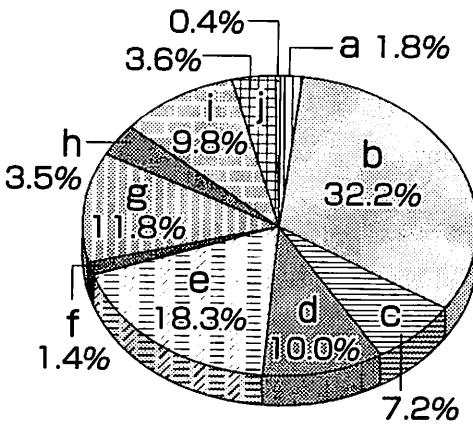
(文責 小島寿夫)

9、あなたはどんな悩みごとがありますか。3つ以内選んでください。



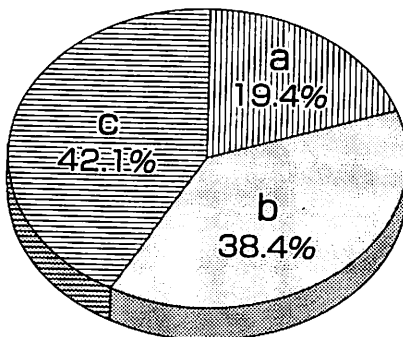
j	i	h	g	f	e	d	c	b	a
とくに悩みごとはない。	その他	趣味・特技や部活のこと。	友人関係のこと。	家族のこと。	健康のこと。	容姿のこと。	性格のこと。	進路のこと。	勉強のこと。

10、あなたは将来どのように生きていきたいですか。2つ以内選んでください。



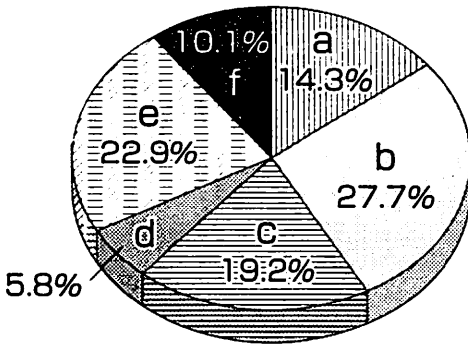
j	i	h	g	f	e	d	c	b	a
あまり考えたことがない。	お金を手に入れて豊かな生活をしたい。	有名になってまわりから高く評価されたい。	自分の趣味を大事にしていきたい。	まわりの流れのままに生きていきたい。	自分を失わずに、まわりの人たちと仲良くやっていきたい。	まず家族を大切にしたい。	まわりや社会のために役立ちたい。	自分にふさわしい仕事を見つけて、それらうまくこなしたい。	いま勉強していることをもっと深く追及したい。

11、10年後の日本の将来はどうなると思いますか。



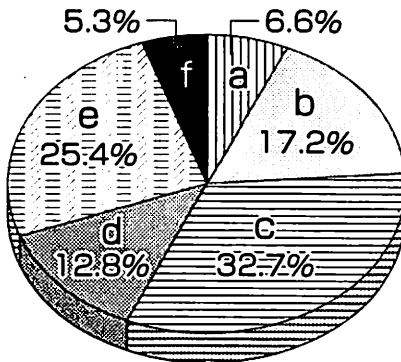
c	b	a
わからない。	どちらかというと暗くなる。	どちらかというと明るくなる。

12、12で(a)と思う人は、そのおもな理由を2つ以内選んでください。



a	科学技術が発展し、生活がより便利になる。
b	深刻な不況はのりこえられ、社会全体が豊かになる。
c	個人の努力や実力が正当に評価され、むくわれる社会になる。
d	民主主義が発展し、国民が大切にされる社会になる。
e	人類はよりよい未来をきりひらいていく力がある。
f	その他

13、12で(b)と思う人は、そのおもな理由を2つ以内選んでください。



a	社会のしくみができあがりつつあって、どうにもならない。
b	テロや戦争で世界がますます混乱していく。
c	不況がいつそうひどくなくなって、国民生活はどん底になる。
d	個人がどんなにがんばっても、まともに評価されない社会が続く。
e	環境破壊などがすすんで、人類の未来がおびやかされる。
f	その他

# 新潟県高校生アンケート

2002年12月実施

公立高校26校、32学級、全体1,099名(男579名、女520名)

普通科18学級、職業科14学級、その他1学級

## 1. 朝、あなたはどんな気持ちで学校に行きますか。

	全体	%	男	%	女	%
a 元気な気持ちで出かける。	81	7.4	44	7.7	37	7.1
b とくになにも思わない。	656	60.2	342	59.9	314	60.5
c あまり行きたくない。	233	21.4	110	19.3	123	23.7
d 行きたくない気持ちでいっぱいである。	119	10.9	74	13.0	45	8.7
無 答	1	0.1	1	0.2	0	0.0

## 2. あなたが学校にかよっている目的はなんですか。

a 多くの知識を身につけ、もっと深く学びたい。	77	5.3	48	6.2	29	4.3
b 就職するための知識・技術を身につけたい。	148	10.2	93	12.1	55	8.1
c しんがくするための学力をつけたい。	195	13.5	104	13.5	91	13.5
d 将来やりたいことがあるので、それに挑戦できる力をつけたい。	153	10.6	68	8.8	85	12.6
e 自分にあった仕事を見つけるために、いろんな勉強をしたい。	98	6.6	56	7.3	40	5.9
f 部活でがんばって実力をつけたい。	106	7.3	72	9.3	34	5.0
g 将来のことは考えられないので、とにかく卒業できればよい。	96	6.6	53	6.9	43	6.4
h 友だちとあうのが楽しみで学校にかよっている。	306	21.2	131	17.0	175	25.9
i ただなんとなく学校にかよっている。	226	15.6	122	15.8	104	15.4
j その他	40	2.8	23	3.0	17	2.5
無 答	3	0.2	1	0.1	2	0.3

## 3. あなたは毎日の授業について、どのように受けとめていますか。

a 授業に真剣にとりくみ、意欲をもって勉強している。	51	4.4	31	5.2	20	3.6
b 授業はだいたいまじめに受けている。	495	43.0	231	39.1	264	47.2
c 授業はたいくつでおもしろくない。	233	20.3	128	21.7	105	18.8
d 授業にあまり集中していない。	180	15.7	99	16.8	81	14.5
e 授業は卒業のために必要なので、がまんして受けている。	158	13.7	83	14.0	75	13.4
f その他	30	2.6	17	2.9	13	2.3
無 答	3	0.3	2	0.3	1	0.2

## 4. 授業について、あてはまるものがあれば2つ以内選んでください。

a 親の期待やばげましにこたえてがんばりたい。	118	8.5	66	8.9	52	8.0
b 先生の授業への熱意や工夫がばげましになる。	53	3.8	35	4.7	18	2.8
c 勉強から生き方までなんでも話しあえる友だちがいてはげみになる。	207	14.9	79	10.7	128	19.8
d 平和・環境・社会問題などを理解し、貢献できる力をつけたい。	110	7.9	65	8.8	45	6.9
e 競争社会だから、他人に負けない力をつけたい。	146	10.5	99	13.4	47	7.3
f やりたいことがあるので夢にむかってがんばりたい。	316	22.8	150	20.2	166	25.6
g あてはまるものがない。	431	31.0	242	32.7	189	29.2
無 答	8	0.6	5	0.7	3	0.5

5. 授業について、あてはまるものがあれば2つ以内選んでください。

	全体	%	男	%	女	%
a 親がうるさくてやる気がしない。	53	3.5	27	3.3	26	3.7
b 先生がうるさくてやる気がしない。	76	5.0	48	5.8	28	4.0
c 授業が一方的で生徒の要望とかげはなれている。	220	14.4	116	14.0	104	15.0
d 授業にも集中できなく、なにごとにも意欲がわかない。	168	11.0	75	9.0	93	18.4
e ほどほどにやっても何とかなる。	299	19.6	168	20.2	131	18.9
f 希望が見えない世の中で、何をしてもムダだ。	53	3.5	37	4.5	16	2.3
g 勉強する習慣がついていない。	390	25.6	221	26.6	169	24.4
h あてはまるものがない。	253	16.6	130	15.7	123	17.7
無 答	12	0.8	8	1.0	4	0.6

6. あなたはどんな授業を望んでいますか。3つ以内選んでください。

a 重点をおさえた、応用力のつく授業。	412	17.0	238	18.8	174	15.0
b すすみ方がゆっくりで、わかりやすい授業。	574	23.6	286	22.6	288	24.8
c 内容が深くもっと知りたいという意欲がわく授業。	293	12.1	150	11.8	143	12.3
d 社会的な視野が広がり、考えさせられる授業。	199	8.2	113	8.9	86	7.4
e 進路に向けて、実力がつく授業。	360	14.8	202	15.9	158	13.6
f 実験・実習・見学・レポートなど、自学自習の力がつく授業。	99	4.1	56	4.4	43	3.7
g 生徒どうしの話しあいなど生徒が参加できる授業。	172	7.1	90	7.1	82	7.1
h わからないことについていねいに答え、個別指導をしてくれる授業。	268	11.0	98	7.7	170	14.7
i その他	45	1.9	31	2.4	14	1.2
無 答	6	0.2	4	0.3	2	0.2

7. あなたはどんな友だちがいますか。

a 気軽に声をかけあう友だちがいる。	621	35.0	347	40.4	274	29.8
b なんでも話せ、相談できる友だちがいる。	408	23.0	143	16.7	265	28.9
c えたがいに信じあえる友だちがいる。	216	12.2	91	10.6	125	13.6
d 勉強をいっしょにできる友だちがいる。	143	8.1	61	7.1	82	8.9
e 部活や趣味がいっしょで、気持がつうじあう友だちがいる。	261	14.7	136	15.9	125	13.6
f いっしょにいるグループはあるが、いつも気を使っている。	50	2.8	23	2.7	27	2.9
g ほとんど友だちはいない。	42	2.4	32	3.7	10	1.1
h その他	28	1.6	22	2.6	6	0.7
無 答	7	0.4	3	0.3	4	0.4

8. あなたは自分についてどう思っていますか。2つ以内選んでください。

a 自分に自信がもてる。	122	8.5	88	11.7	34	5.0
b 自分に自信がもてない。	504	35.3	227	30.2	277	40.9
c 自分だけがだれよりも好きである。	39	2.7	27	3.6	12	1.8
d 人とつきあうことが苦にならず、社交性がある方だ。	304	21.3	151	20.1	153	22.6
e 人とつきあうのがおっくうで、ひとりである方がよい。	188	13.2	129	17.2	59	8.7
f 人の目が気になって、学校に行きたくないときがある。	140	9.8	54	7.2	86	12.7
g その他	106	7.4	63	8.4	43	6.4
無 答	25	1.8	12	1.6	13	1.9

9. あなたはどんな悩みごとがありますか。3つ以内選んでください。

	全体	%	男	%	女	%
a 勉強のこと。	429	19.9	230	21.3	199	18.6
b 進路のこと。	604	28.1	300	27.7	304	28.4
c 性格のこと。	227	10.6	100	9.2	127	11.9
d 容姿のこと。	199	9.3	63	5.8	136	12.7
e 健康のこと。	99	4.6	65	6.0	34	3.2
f 家族のこと。	90	4.2	38	3.5	52	4.9
g 友人関係のこと。	151	7.0	55	5.1	96	9.0
h 趣味・特技や部活のこと。	134	6.2	88	8.1	46	4.3
i その他	61	2.8	38	3.5	23	2.2
j とくに悩みごとはない。	153	7.1	103	9.5	50	4.7
無 答	4	0.2	2	0.2	2	0.2

10. あなたは将来どのように生きていきたいですか。2つ以内選んでください。

a いま勉強していることをもっと深く追及したい。	35	1.8	23	2.3	12	1.3
b 自分にふさわしい仕事を見つけ、それにうちこみたい。	615	32.2	315	31.4	300	33.1
c まわりや社会のために役立ちたい。	137	7.2	59	5.9	78	8.6
d まず家族を大切にしたい。	191	10.0	107	10.7	84	9.3
e 自分を失わずに、まわりの人たちと仲良くやっていきたい。	349	18.3	155	15.4	194	21.4
f まわりの流れのままに生きていきたい。	27	1.4	22	2.2	5	0.6
g 自分の趣味を大事にしていきたい。	226	11.8	130	12.9	96	10.6
h 有名になってまわりから高く評価されたい。	67	3.5	47	4.7	20	2.2
i お金を手に入れて豊かな生活をしたい。	188	9.8	106	10.6	82	9.1
j あまり考えたことがない。	68	3.6	36	3.6	32	3.5
無 答	7	0.4	4	0.4	3	0.3

11 10年後の日本の将来はどうなると思えますか。

a どちらかという明るくなる。	210	19.4	124	21.9	86	16.7
b どちらかという暗くなる。	416	38.4	236	41.6	180	35.0
c わからない。	456	42.1	207	38.5	249	48.3

12. 12で(a)と思う人は、そのおもな理由を2つ以内選んでください。

a 科学技術が発展し、生活がより便利になる。	47	14.3	34	17.2	13	10.0
b 深刻な不況はのりこえられ、社会全体が豊かになる。	91	27.7	53	26.8	38	29.2
c 個人の努力や実力が正当に評価され、むくわれる社会になる。	63	19.2	31	15.7	32	24.6
d 民主主義が発展し、国民が大切にされる社会になる。	19	5.8	9	4.5	10	7.7
e 人類はよりよい未来をきりひらいていく力がある。	75	22.9	48	24.2	27	20.8
f その他	33	10.1	23	11.6	10	7.7

13 12で(b)と思う人は、そのおもな理由を2つ以内選んでください。

a 社会のしくみができあがっていて、どうにもならない。	49	6.6	30	7.2	19	6.0
b テロや戦争で世界がますます混乱していく。	127	17.2	69	16.5	58	18.2
c 不況がいっそうひどくなって、国民生活はどん底になる。	241	32.7	136	32.5	105	32.9
d 個人がどんなにがんばっても、まともに評価されない社会が続く。	94	12.8	55	13.2	39	12.2
e 環境破壊などがすすんで、人類の未来がおびやかされる。	187	25.4	102	24.4	85	26.6
f その他	39	5.3	26	6.2	13	4.1

14 学校や授業、先生にたいして思うことがあったら自由にかいてください。

## 「高校生アンケート」

### おもな自由記述

(質問14)

#### 〈授業に対して〉

- ・生徒が意欲的に学習するようにするのが先生の腕の見せ所だと思う。
- ・生徒の声を反映した授業にしてほしい。
- ・わかりやすい、楽しい、意欲がわく授業にしてほしい。
- ・もう少しみんなが興味を持てる授業にしてほしい。
- ・勉強をもっとわかりやすく、ていねいに教えてほしい。
- ・学校は点数、点数と言いすぎる。頑張りや中身も評価してほしい。
- ・黒板に書く場合はわかりやすく、上手に書いてほしい。
- ・社会系の授業は、先生が黒板に書いて説明して進むというのをくりかえしているだけだ。どうすればわかりやすい、楽しい授業になるか考えてもらいたい。
- ・ミスばかり責めるのでなく、努力や長所を認めて欲しい。教え方がうまい先生はたくさんいるけど、生徒の気持ちが悪くなっていて先生は少ない。
- ・質問したときには、ていねいに教えてもらいたい。
- ・先生は授業中に本を読んでいると授業に集中しろだの、社会に出るため勉強しろとかいうのが、勉強に何の意味があるか分からない。家に金がなけりゃ、大学はいけやしない。
- ・この学校で勉強していることは将来何の役にも立たないと思う。学校はとにかくつまらない。
- ・自分がならう先生を選べたらいいと思う。
- ・勉強しないと人間でないような言い方、専門学校をバカにして大学をすすめる。
- ・将来、役に立たないような知識の詰め込みが多すぎる。頭でなく、心を育てるような教育がよい。
- ・もっと生活に役立つことを教えるべきだ。
- ・教師とのあいだに「溝」を感じる。教師の知識不足に不満・不安を感じる。
- ・授業五分前に入ってきて席に着かせるのは間違っている。休み時間なんだから休ませろ。

・眠くなるような授業はやめてほしい。

・一方的に進む授業はやめてほしい。個人個人にわかりやすいように教えてほしい。たたくのもやめてほしい。

・授業の進み方が速くて、生徒がついていけない。

・先生は生徒の気持ちを分かかっていない。学校の先生は生徒の気持ちを考える前に、学校そのものの価値を下げたり、評価が落ちることを怖がっている。だから生徒も反発する。

・先生の教え方って大分差がはげしく、わかりやすい先生とわかりにくい先生がいるから、クラスによって成績が大分違うけどそれでいいのかなって思う。

・教科書だけで学ぶのではなくて、見学・実験・ビデオ鑑賞とかもやってほしい。

・先生の中には生徒の顔なんか全然見ずに、一人で授業を進める人がいる。生徒に教える立場なのだから、一人一人の顔を見てちゃんとコミュニケーションのとれた授業をして欲しい。

・自分の教える教科の内容を本当に理解せずに教える先生がいる。

・授業でも進路のことでも、もっと親身になってほしい。

い。

・授業以外の先生の話を聞きたい。人生の先輩としてとてもプラスになると思う。

・五、六限は「授業」より、「学習」や「勉強」の時間にした方がいい。

・学校の授業のやり方を一八〇度変えて欲しい。机に座ってする授業ばかりじゃなく、外に出て歴史を勉強したり、学校で仕事を取り入れた店を出して生徒が働いたり、海外に行って肌で覚える勉強がしたい。

・人間だから仕方ないが、自分の機嫌が悪いからといって、生徒に対して態度が悪いのはどうかと思う。

・自己満足的な授業にならないでほしい。

・授業の中で体罰は良くないと思う。もう少し、生徒のことを考えてもらいたい。

・授業を受けていて、まったく分からない先生がいる。授業を受ける意味がない。

・教科書に書いてあることをそのまま教えるしかできない先生がいる。

・授業がわかりにくい。高校はなんのためにあるのか見直すべきだ。もっと私たちのために必要な授業を考えてほしい。



・ある先生はテストを点数順に返すが、生徒の理解を得ないまま勝手にやっているので生徒のプライバシーが保障されない。もっと考えて欲しい。

・受験英語は将来の役に立たない。

・五十分授業は長すぎる。七限授業は嫌だ。

・(他に、わかりやすい授業、ていねいな授業、楽しい授業を望む声が多い)

## 〈学校・教師に対して〉

・不要な教師が多すぎる。減らすべきだ。

・殴るのは良くない。人を殴るな。

・先生の考え方が強すぎて、生徒は疲れる。

・もっと生徒を信じて欲しい。

・生徒をひいきしないで平等にあつかってほしい。

・週五日制で生活のリズムが狂い、やりづらくなった。

ゆとりどころかまったく逆である。

・楽しい学校にしてください。

・先生は「勉強、勉強」って本当にうるさいから、イライラしてくる。すこくしつこいから「やりたいならお前がやれよ」っていつも思っている。

・学校は学ぶ場所でなく、空虚な場所で意味がない。

変えていかないと、救いようのない場所になるのではないか。

・とても楽しい先生、クソみたいな先生がいる。みんなそこそこの先生になればいいと思う／

・先生とは頭の固い人間が多い。

・もっと私たちの意見を聞いてもらいたいと思うし、わかってもらいたい。

・「この先生いいな」って思う先生が少なくないが、ほとんどの先生が教師だぞって感じて生徒を見下してる気がする。もっと仲良くなって、いろいろと話せる先生が増えてほしい。

・生徒の話を聞いてくれる先生がいい。友人として生徒と向き合う先生。細かいことをクタクタ言うな。

・ある先生がむかつく。自分のことしか考えていない。うちのことをクズ呼ばわりしている。

・何でも怒ればいいと思っただけじゃない。

・生徒になめられない先生であってほしい。

・先生の一方的な言い方がいいや。注意がくどい先生はだいきらい。

・先生にバカにされたことがありショックでした。自分勝手な考えを持つ先生は先生としてふさわしくない。

いと思う。

・先生は生徒一人一人を見てほしい。

・学校の評価よりも生徒のことについて、もっと考えてほしい。

・学校五日制による授業時間の増加は問題があると思う。本校では週三日、七限があるが、それによって部活時間が減っている。勉強だけに力を注ぐというのは学校としてどうなのだろうか。

・五日制はあまりいいことがない。こういうことを決めるときは生徒にも意見を聞いてから決めた方がいい。

・三年たつてようやく先生の大切さがわかった気がする。一生懸命の先生がたくさんいる学校で良かった。性教育をもっとくわしくしてもらいたい。

・学校暗い、先生やる気ない、生徒だらしない、授業つまらない、いつまでも学歴主義。

・先生の中には生徒の夢をなくす人がいる。

・はやく高校も義務教育にして、みんなが進級できるようにしてほしい。

・学校は団体行事を強制することが多い。もっと個々の力を発揮できるような場所が必要。学力低下を恐

れているのなら、もっと補習を増やせばいい。

・もっと自由な学校がいい。授業などに社会問題とかをとりあげ、みんなで話し合う時間が欲しい。いろんな人の考えを知り、理解するために、もっとクラスや学校で話し合いの時間を増やしてください。

・始業式。終業式の校長の話は聞いても意味がない。時間の無駄だ。

・もっといい設備にして欲しい。学校が汚い。

・交通が不便。床がきしんで楽でない。

・教室が寒すぎて集中できない。夏は暑すぎる。

### 〈生徒指導に対して〉

・遅刻調査や頭髪検査など三日坊主になるようなことはやるな。

・頭髪、ピアスが学校の名誉を傷つけるといって、なおせ、悪いというのは間違っている。

・頭髪、服装検査が多すぎる。

・最近の先生は親とか上の人の目ばかり気にしていて、自分たちと真剣にかかわっていない。

・学校は自由がない。見た目で判断するな。

・なんで先生はそんなにえらそうなんだ？俺らと何が

ちがうんだよ？やっつけられねえよ。

・先生とかは意外と生徒のことを何も分かっていない。

もっともらしいことをいうけれど、全然分かってない。規則・校則とうるさいけれど、服装とかは禁止すればいいってものじゃないと思う。

・服装の悪い人が多すぎるので、もっと厳しくして欲しい。

・校則違反の生徒への処分はもっときつくした方がよい。

## 生徒の声から何を讀みとるか

— 「高校生アンケート」を讀んで —

齊藤進

はじめに

一月に開かれた教育研究全国集會に初めて小学生のレポートが参加しました。『子どもの権利条約』が学校に息づく具体的な実践が報告されました。和歌山の小学生七人が「教育集會で先生だけが発表するのはずるい、直接自分たちが発表したい」との思いから名古屋までやってきました。

「リラックスルームを復活させ、そこにマンガを置

きたい」という生徒の声を出発点に、どんなマンガをそこに置きたいのかを全校でアンケートをとりました。

みんなの要求を聞いて、一輪車や逆上がり練習機を備えてもらおうとくみ。みんなで楽しい学校にしたいという気持ちがあふれています。子どもたちが何か言いたいと思った時にそれを受け止めてくれる教師がいれば子どもたちはどんなに救われるでしょうか。以下、県内高校生のアンケートから子どもと教師の関係がどうなっているのかを検討してみたいと思います。

## 一、高校生は「教師」をどう見ているのか

「なんで先生はそんなに偉そうなんだ、俺らと何が違うんだよ。やっつてられねーよ」

「ほとんどの先生が教師だぞって感じに生徒を見下している気がする。もっと仲良くなっているいろいろ話せる先生が増えてほしい」

「友人として向き合える先生、生徒の話聞いてくれる先生がいい」

「最近の先生は親とか上の人の目ばかり気にしていて、自分たちと真剣にかかわっていない」教師が子どもをどうとらえているかの「子ども観」はよく問題にされます。ここには生徒の目から教師を見たときの「教師像」(子ども観の裏返し)が伺えます。

学校づくりを考えるときに、教師が子どもを受け止めることが必要不可欠であるとされています。本県の場合には子ども達の声はなかなか教師には届きにくい状況にあるようです。子どもに様々な要求がある時、子どもの権利が侵害されたとき、子どもだけでその障害を排除して自分たちの要求を実現したり、権利を守るといった場合を想定しても、子どもの力だけでは権利を実現することはかなり困難です。まして実際

の学校現場では、子どもたちによかれと思って、教師がいわば「善意」から様々な規制を作ったり強制している面があります。良かれと思つての行動が、結果として権利を侵害することにつながる場合もあるのですから、子どもたちの混迷は相当に深いものがあるかも知れません。

我々教員には「子どもも人間である」「子どもは子どもである」という「子どもの権利条約」の内容を理解し、それを実践することが今問われていることです。アンリ・ワロンは「子どもの権利とは何か、それは子どもの本性を尊重させ子どもの中にある固有の資質を尊重させ、子どもは大人でないこと、大人ではないから子どもには大人と違った扱いが必要なことを、大人が子どもに自分の感じ方や規律を押しつける権利を持つていないことを承認させる権利のことです」(「ワロン・ピアジェ教育論」)と記しています。

## 二、学校の作り手としての生徒

「音楽の先生が一方的で本当にいやだ」「自分の話を聞いてくれる先生がいい」「教師との間に溝を感じる」「親密になれる先生がいて欲しい」「生徒の声を反映した授業にして欲しい」「授業以外の話を聞きた

い。人生の先輩としてプラスになるから」生徒の側からは少なくとも拒絶はされていなくて、もっと身近な存在でいて欲しいとのメッセージだと受け取れます。教師に語りたこと、訴えたいことがたくさんあります。うです。残念ながらそれを受け止める状態ではない教師が、かなりいますよと生徒は言っています。

教師をそんな方向に追いたてる原因で思い当たることの一つは、本来の趣旨に沿わない学校五日制です。三万人の教員を対象にした全日本教職員組合のアンケート調査では、八七%の教職員が「子どもの学校生活が忙しくなった」と感じ、「仕事が終わらずに学校にいる時間が増えた」のが四九%に上っています。

子どもが真に人間として尊ばれるためには、大人である私たちの生活がより人間的な内容で保障される必要があります。

### 三、やる気のない教師、体罰教師がいる

「やる気出せ」「教師はやる気がない」「熱意のあまり無い先生がいる」「いつも怒っている」「生徒の夢をなくす先生がいる」「教科内容を理解していない教師がいる」「自分の機嫌次第で怒り散らす」「殴るのは良くない」「授業の中で体罰は良くないと思う」

管理主義の一つの現れ方に教育の事務化があります

(城丸章夫「管理主義教育」)。管理主義という「取り締まり主義教育」がすぐ思い浮かびますが、臨時教育審議会でも第二次答申で「一部に見られる過度に形式主義的・些末主義的な管理教育」という言い方が見られます。

教育の事務化・実務化とは教育活動が子どものはたらきかけるのではなく、事務でも行うかのように、機械的・形式的に行われていくことです。子どもがわかっていようといまいと、予定に従って教師が勝手に進めていく授業です。一見すると無駄のない進歩した教育のように見えますが、実態は子どもたちを「切り捨てる」選別教育であり、丸暗記・得点アップ技術至上主義教育です。

県教委が目指しているのは大学進学率の向上、センター試験の五教科型受験者数の増加にあります。子ども意識とかけ離れたところでの数値目標の設定は教育現場にはなじまないし、教育の事務化をもたらす追い風にしかありません。

次に、公立高校で臨時教員としてがんばっておられる先生や臨時職員の方にアンケートについて率直な感想を書いてもらいました。今回の「高校生アンケート」から何を讀みとるのか参考になると思います。

(さいとう すずむ・県立黒崎高校)

# 生徒の人権に心配りを

佐藤 由里子

教師に対する意見の中に「この先生いいなって思う

先生が少ない」、「ほとんどの先生が教師だぞって感じに生徒を見下している気がする」、「授業でも進路のことでももっと親身になってほしい」、「うちのことをクズ呼ばわりしている」、「先生にバカにされたことがあるショックだった」、「生徒にイヤミを言う」等々教師である前に人間としてどうかと思うような人権に関わる事が書いてあったことに私自身ショックを受けました。教師の一言一言がいかにかに生徒たちの心をスタスタに傷つけているかを分からずにいる人が多いのです。私自身も反省する所が多くあり、もっと考えなければならぬと思います。

同時に多くの子が「学校が楽しくあった方がいい」と思っていることは救いです。それは教師もそうしたいと願い、努力していかねばならないことだと思えます。授業中、あまり真剣に取り組まない生徒に対し

「なんで学校に来るの、いつも学習に取り組まないのに」と言う、「友達がいるから楽しいじゃん」「先生は勉強っていうけど学校に来るといふんなことが他にもあるんだよ」とか答える生徒がいます。私はそういう答えでもいいと思うのです。学校が楽しいと思う気持ちがあうれしいです。

授業の内容についても「勉強をもっとわかりやすく丁寧に」「熱意がない」「わかりやすい楽しい意欲のわく授業を」という意見が多いのは本当だと思えます。やはり生徒の前に立つ時は教材研究をして立つべきだと思えます。私は国語なのでよく書かせます。そうすると生徒は「書かせすぎ」と言いますが、こんな時の私は「国語だから」とつっぱねます。文章になれること、漢字をいっぱい書かせること、そこから学ぶことも多いと思うからです。

最後に、私自身、生徒一人一人の心のどこかに「あつそういえば……」という言葉や思いがささっていく教師でありたいと思いい日々努力しています。

(さとう ゆりこ・県立高校常勤講師)

## 生徒は繊細で純粋です

星野奈美

今回のアンケートでの生徒の言葉の多くに、先生への痛烈な批判が多いことが印象的でした。教師を教育者ではなく、人間として見ているようです。自分が高校生の頃はどうかだっただろうと比べてみても、あまりにも昔のことで忘れてしまった感情も多いのです。ただ、今回の彼らのように、教師をあんなによく観察し批判することに共感を抱かなかったと思います。それだけ今の高校生は先生や学校に期待しているということなのでしょう。自分たちでも変えられるのだという権利を主張し変化を求めているのか、ただ変わることを期待して批判しているのがこのアンケートでは分かりづらいようです。

この一年、緊急雇用特別対策事業の一環で進路指導支援員として雇用され、なかなか知ることのできない教育現場の様々な面を見ることができました。世間では、今の若者は「キレやすい」とか「責任感がない」

等散々言われていますが、中で見る彼らの多くは繊細で純粋なのです。そして自分に対する批判に敏感です。ある意味とても子どもな気もします。大人に求めることも多く、かつ自分が子どもでないと主張します。

先生に対しての疑問もいくつかわかりました。例えば、学校生活で規則やルールの説明が生徒の立場でできているかなと思います。ただ規則だということは誰でもいえますが、どうしてその規則があり、ルールがあるのかをきちんと説明しているでしょうか？そして説明できるだけの規則なのでしょう。なぜ、どうしてという疑問をうまく表現できずにいる生徒に、「こうだ！」という言い方をすれば、「一方的な言い方」や「独りよがり」と言われて当然です。

勝手にいろいろ言ってみましたが、私は決して学校だけを批判をしているわけではないのです。今社会でも、犯罪の若年化やその悪質化は問題になっています。どうしてなのだろうか考えた時、その責任を学校に持ってくることは間違っていると思います。家族も多様化しています。社会もどんどん変わっています。大人でない大人もたくさんいるのです。何が一番いいのかという定義すら難しい世の中です。そういう中で思春

期を過ごし、大人になっていく生徒は大多だと思えます。その中で貴重な生徒の声を、学校はどうやって生かしていくか、任期の終わった後もじっくり見守っていきたいと思います。

(ほしの なみ・県立高校進路指導支援員)

## 自ら考え行動する生徒へ

本宮 あかね

昨年十二月に実施された新潟県高校生アンケートの結果を見て、なんとも情けない結果だなとため息をついた瞬間、自分は良くも悪くも「教師」という立場の人間になってしまったのだとつくづく思いました。この結果をどう判断するかという基準を「教師の目」からではなく、自分が高校生の時を基準にしてみるとまた違ったものが見えてくるのではないのでしょうか。しかし、そこにはすでに「教師になってからの考え方」が含まれてしまい、見えてこない部分もあるように感じます。例えば、「学校に通っている目的」の一番多い回答

は「友達と会うのが楽しみ」や「ただなんとなく」です。そこに「朝、どんな気持ちで出かけるか」という質問の回答の「特に何も思わない」を合わせて考えると、「今時の高校生はやっぱり、目的意識がないんだな。勉強に気が向いていないんだな」になってしまいます。しかし色々な事情を抱え、学校へ来られなくたってしまいう生徒が増えている現状を考えれば、どんな理由であれ、学校へ足が向いている事をまず評価すべきなのかもしれません。また「学校に通っている目的」の回答の中で「就職・進学・将来やりたいことのために」という意見をあわせると、三十四・六%にもなり、「将来どのように生きていきたいか」との質問には「自分に相応しい仕事を見つけ、それに打ち込みたい」とか「自分を見つけ、それに打ち込みたい」とか「自分を失わずに、周りの人達と仲良くやっていきたい」という回答が多いのを見ると、「まだまだ捨てたもんじゃないな」と安心もします。

また、その他の質問の回答や、教師や学校に対する思いには嘆きを通り越し、思わず腹を立ててしまうようなものもありましたが、そういった意見や前記したような意見を私たち教員がもっとしっかり受け止める



べきだと思えます。そして私たちも変わっていかねければならない部分があるのも事実です。

生徒達は昔と違って自ら考え、行動する事が苦手になってきているように感じます。だから、目的意識を持つていたとしても、教師や周囲に依存するような行

動しか取れないのではないのでしょうか。これからはそんな生徒達を上手く方向付けてあげられるような、導いてあげられるような方法を身に付けることが出来たらと思えます。

(もとみや あかね・県立高校非常勤講師)

## 生徒の願いに込えてほしい

本 田 敏 彦

高校生千人のアンケート、そこには共通した彼らの願いが見えます。「① 自分のため、社会のため次の進路のために力をつけたいという願い。② 教師の熱意、授業の工夫、友人との支え合いが励みになることをわかってほしいという願い。③ 授業がおもしろくない、よくわからないことを何とかしてほしいという強い要求」です。ですから、自由記述欄ではこうした気持ちをくみ取れない教師たちへの手厳しい批判力と学校を自分たちの願いがかなうようつくりかえて欲しいというエネルギーがよみとれます。

「説明責任」と子どもの権利条約の「意見表明権」

「学校がもし再度、彼らの気持ちをていねいに聞き取り、教師も自分たちの置かれている状況を語り始め、共にその願いを紡ぐ手だてがあれば、学校は変わり始める」、調査結果を見てそんな思いになりました。

少しこわ面でいいかえると、学校は生徒にも、親や地域住民にも「説明責任」を十分はたす機会と時間をシステムとして持てないで来ました。

欧米諸国では一九七〇年代から保護者・地域住民、生徒、学校それぞれの代表による学校会議がすでに機能しています。子どもの権利条約第一二条「子どもの意見表明権」が社会のシステムとして実体化しているのです。

日本では「子ども」の意見を聞き取るのは大人の責務だ」ということは学校でも、家庭でもまだ市民権を得ていません。「大人が教えるのに従って、子どもは努力せよ」という子ども観（「子どもの権利利益説（注一）」）が問われている問題でもあります。

\*注一：本誌68号の世取山洋介論文

「服従か解放か、あるいは関係の質の改善か」

## 「開かれた学校」づくりが動き出している

「地域に根ざした学校づくり」という教育課程は、教育への国家統制が戦後依然として文教政策を色濃く覆っていることに対する国民教育実現を願う人たちの側がたてた教育課題でした。今、教育行政の側も「地域に開かれた学校」ということばを使うようになりました。

『「学校評価」の手引き』をこ存じでしょうか。平成一五年二月に具教委が出したものです。県下の市町

村教育委員会教育長と公立の小・中・高の校長さん宛てになっています。要点を拾うと

「地域に信頼される開かれた学校づくり推進のため」の「学校評価システム確立」の調査研究をしてきたが、まとまったのでおくる。「一四年度末から学校評価を的確にして改善点を次年度の計画立案に役立て」欲しい。一六年度を中途に当県の「学校評価システムを作り上げたい」というものです。（本番は一六年度から始めるぞということでしょうか）

① 自校の（授業等の）教育活動、②（学校の）運営活動、そして③（生徒がどのように成長しているたかの）成果を各校ごとに自己点検、自己評価をすることが求められます。教職員内部だけの自己点検、自己評価ではありません。評価のアンケートは学校評議員、保護者、生徒用もあります。

行政の主導で「学校評価」のシステムは始まっているのです。これを学校の「説明責任」をはたせる好機と受け止め、協同して改善策立案の力をつけて行くか、職員の管理強化策となる方向で上の指示で改善策を作成するだけになるかが問われるところです。

## 教師集団の教育論議を深められるかがカギ

私は在職中、相手を言い負かすのでなくて、異なった見解も聞き合って討議する。協同のために多様な意見を寄り合わせるのが下手でした。それ故、協同して実践し、その総括を手がかりに、またみんなで一つ上の峰をめざすという民主的な合意形成がなかなか広がりませんでした。対処療法的な当面の問題解決策づくりに追われて、その問題のよって立つ根本を学習した上での論議ができませんでした。自分の実践を振りかえてみると、頭の中は目の前の生徒たちの生活指導のこと、授業のことでいっぱいでした。じっくり考える余裕がなかったというのが正直の気持ちです。

この一人一人の生徒の状況に対応して一喜一憂するという教師の仕事柄、企業社会のように上司の命令には有無を言わせぬという上下関係は持ち込めません。

この教育実践の個性性は企業社会の管理的統一性と矛盾するのです。自由な雰囲気の中で個々の実践の情報が相互に伝え合うことができず自由な教育論議が高まらない場合は職員会議は形骸化します。私は管理職の論議不要という不条理な強い命令で教師集団がロボットのよう動くようになることも体験しました。逆に

組合が教師の権利ばかり主張して生徒の学習権を結果として放棄するような対応にも出会いました。何れの時も校長を中心に教師が具体的に子どもたちの現実を出し合って自由に教育論議がありませんでした。こうなると体罰主義の教師、冷たい事務的な対応をする教師への批判が公式の論議に乗りません。この少しも変わらない学校の管理体制に業をにやした暴れん坊の生徒が、私に「味方のような言い方するな！なにも愛わらん！お前は味方の顔をした敵だ！」と吐き捨てるように叫んだことを思い出しています。生徒の願いに応えることや「学校評価」を自覚的、自律的に練り上げて行くには教師集団の教育論議をどのように、どこまで深めていけるかがカギです。

## 教育論議をもう一つ前に進められないだろうか

「今の高校生をどう見るか（こども観）」「その学力形成をどう見るか（学力観）」が問われています。そのことについて全職員の統一見解がまとまることは、それこそ十人十色大変です。だが「互いの認識の違いが見えてきて良かった」「その実績のスタイルには、こんな子どもの見方があるからなんだ。実践の多様性

を実感した」「論議の中で、視野が広がり、多面的に考えられるようになった」という論議の仕方がないものでしょうか。

学生時代に一つのテキストを取り上げて、教授や先輩の院生に解説やアドバイスを受けながら大議論をしつつも、しっかりとした資料や事実、豊かな経験をもとに知的に論理的に語りあったことをどなたもご経験がおありだと思います。そんな形の勉強会が「高校生像」「学力論」「国民の階層化」「不登校」「学校完全五日制」「絶対評価」等々をテーマに論じられると今日の高校教育の問題の所在が次第に鮮明になってくると思うのですが。

私は在職中、論議をして決定し、実務に移して行くという職員会議とは違う、「学び会い、論じ合い、実践の目標は定めるが、実践の方法や手だてはその人（その教科、学年、分掌）の創意性にゆだねられる」という経験を退職五年前の学年会で経験しました。

校内で放課後開かれた小さな生活指導研究会の経験もあります。自由で、個性的なつながりながら、よりよい方向に少しでも近付きたいという情熱を皆持っていました。学習する仲間づくりがその一歩でした。先生方をお願いします。アンケートの中に見える生徒た

ちの願いにどうぞ応えてあげて下さい。

#### 追記

私たちも論議の土台になる基礎的な知識を次のような書物で深めました。

岩波新書やNHKBOOKS等で手に入れやすく手頃の値段で最近の論議の紹介もしてあることで助かります。その一部を以下ご紹介いたします。

尾木直樹著『「学力低下」どうみるか』

千石 保著『国際比較で見る日本の高校生』

以上NHKBOOKS

戸瀬信之・西村和雄著『大学生の学力を診断する』

大野 晋・上野健爾著『学力があぶない』

以上岩波新書

（ほんだ としひこ・研究所所員、元高校教師）

